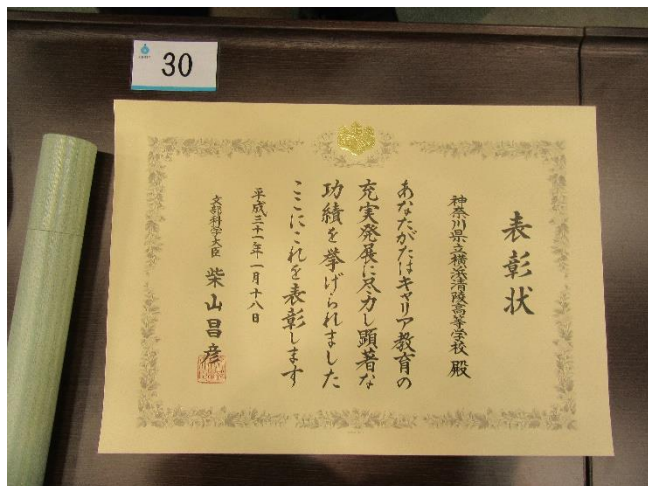


## キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受ける



平成31年1月18日(金)、東京の代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第12回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰式が行われました。47都道府県5政令指定都市の119の団体が表彰され、本県からは学校の部で本校と、政令指定都市から川崎市立木月小

学校の2校のみが表彰状の授与を受けました。

本校が神奈川県教育委員会より推薦を受けた理由は、キャリア教育実践プログラムについてで、以下が推薦理由の文(一部)になります。

○当該校では、入学から卒業までの3年間を見通したキャリア教育実践プログラムがしっかり確立されており、各年次における目標を明確に示し、その実現へ向けた年間指導計画がきめ細かく策定されている。

○計画に沿って指導を進めるに当たり、各々の場面での指導・支援等のポイントや育みたい生徒の姿等が、計画の進度に合わせて捉えやすく示されており、全職員が認識を合わせ、統一した指導を展開できるプログラムとなっている。

この受賞は、横浜清陵総合高等学校のキャリア教育から現在校のキャリア教育に引き継がれてきた教育の成果で表彰されたと思っています。

「キャリア教育」は「進路指導」と同じものなのか、よく問われることがあります。キャリア教育と進路指導の定義を見てみましょう。

1961(昭和36)年、文部省『進路指導の手引-中学校学級担任編』(日本職業指導協会)によると「進路指導とは、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験および相談を通じて、生徒みずから、将来の進路の選択、計画をし、就職または進学して、さらにその後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長するよ



うに、教師が組織的、継続的に援助する過程である。」と記されています。これに対してキャリア教育は、2011(平成23)年1月の中央教育審議会答申で

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されました。

この二つの定義では、進路指導とキャリア教育は、けっしてかけ離れたものではありません。

キャリア教育という文言が日本で最初に出てきたのは、1999(平成11)年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の文中です。本来、キャリア教育と進路指導は同じような意味を持つ言葉でした。児童・生徒の職業理解を深め、社会で自立していくための進路選択力を育むということです。これまでの進路指導というと、中学校や高校での指導であり、出口である上級学校や就職のための指導になっていました。特に進学に関しては、学業成績による進路選択を重視した指導であったり、模擬試験による偏差値を基に学校選択の指導であったり、本来的な意味とはかけ離れた指導になっていました。進路指導は、学校によって大学に合格何人ということが重要視され、一人ひとりの生徒の将来の生き方や職業理解や職業適性がなされないというケースも少なからずありました。

なぜ、キャリア教育が必要なのでしょうか。どんなに偏差値の高い大学に入学したとしても、学ぶ意欲や働く意欲が希薄だったらどうでしょうか。近年、若者の働くことへの関心や意欲の未熟さ、コミュニケーション能力や協働性、自主性などの低下が言われています。キャリア教育は単に進学指導や企業への就職指導ではなく、広く社会人や職業人として自立していくために必要な能力や態度を身に着けさせるための教育なのです。キャリア教育によって、私たちは社会的自立、職業的自立がなされ、自己実現を図ることができるのです。

いままでの進路指導だと、例えばレストランの店主になりたいと思う生徒がいたら、調理師の免許を取得するために専門学校への指導をすればよかったです。しかし、キャリア教育ではレストランの店主になるには、単に調理師の免許を取得するために、専門学校に行くだけでいいのか、それとも店主として大学の経営学部に進学する必要があるのか。それはシェフになるのか、オーナーになるのか、オーナーシェフになるのかなどにもよって異なります。また、オーナーやシェフになるには、どのような適性が必要なのかも問題になります。

人生100年やリカレント教育が叫ばれているなか、一つの職業だけで生涯を終えることは難しい時代になっています。生徒の皆さん、漠然でよいので自分自身のライフプランを考えてみましょう。するとキャリアプランを立てることができると思います。まずはライフプランを考え、キャリアプラン(キャリアデザイン)を立ててみましょう。